

新刀辯疑

七
終

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



LA
5

宗次

孫お大坂人但る宗次と諸子此作地決細ありて弱く地
細ありて卑し上よりありて

光雄

根別方極位諸考良光雄と仰る宗子少お目し能く地
多し上より

自弘

尾陽任本國治地決諸く能くありし務久の國志ありて
仍て多お裁すむ上より

忠廣

遠江吉野國任孫系忠廣ハ遠州の地ありてし能く地
上よりありて

包國

和おお掃の包國於孫府造之世任坂川國廣よりて上より
或首紀年國よりとつて

兼舎

甲州の任兼舎天正比の地治りて銀中心より出まるとも
つて上より

安利

武州任安利ハ大和守安定より出まるとも如く大
て務れり上より

義助

於江戸系曲の南東決造之地目の地は江戸より
上より

宗重

常陸守宗重方坂の二代目より出まるとも
能くありて上より

弘包

行徳子の二代目文珠市より出まるとも父松文珠より
能くありて上より

松齋

小笠原昌高より別人ありて戸川家蕃助の仕也と一書に
ありて上より

國正

一書小云但る國正名弘系庄治城守國光末流より出まるとも
後ハ山城守國清より出まるとも國正より出まるとも
能くありて上より

是一

村國正ハ下坂ありて孫系昌高より出まるとも子と孫系昌高より
孫系昌高より出まるとも上よりありて

兼辰

澁州上者知任兼辰地務細小黒く小龍又少く方蘇の作也

壽命

澁州任壽命家系保中の作也地務細小隠理少く弱き也

信舎

行州任信舎任信舎地務細小細直女よき也其直女より直女く

長治

行州任長治地務細小細直理多し小十郎細直同く

助宗

行州任助宗小十郎助宗代より一子あり録りて花やう赤太龍

國包

奥州任國包其任初代ハ直集小出より二代目の任ハよ手ハあり

安倫

右同任安倫代より初代ハ直集小出より

兼定

奥州任兼定ハ關和泉守兼定より兼定代奥州任す

長道

奥州任長道有兼小も出兼代あり

國義

奥州任國義ハ直集比の任也地務細小隠理少く弱き也

義正

右同任義正保中事の任をなせる國義より直集比の任也

國虎

東奥任國虎任根中和泉守初代ハ直集比の任也

貞則

形木加賀守貞則任初代ハ直集比の任也

貞平

東奥任貞平任貞平と稱す中心直集比の任也

貞資

東奥任貞資任貞資と稱す中心直集比の任也

康氏

代河任康氏と稱す直集比の任也

勝國

加州此後尼勝國幼代ハ爾集力也ナリ當時ニ代連孫す之祖ニ如ク上ありいありん

兼若

加州此後兼若代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

高平

加州此後高平代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

國清

加州此後國清代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

康繼

加州此後康繼代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

重高

加州此後重高代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

國次

加州此後國次代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

宗道

加州此後宗道代有享保の旨ニハ此後細細ニ延くして是後自ハ其後れり上より元祖ニありん

信仍 忠國 兼先 氏繁 秋弘 秋盈 重貞 祐定

信仍 乃兄也兼先仍若人ハ大井氏の習し賜ふふして國清康繼の外ハ其外を足す印陸降しかりし

忠國 因信國信信濃大孫忠國數代ありと書に兄弟の延字の由國ハ上よりありん

兼先 因兼の若先數代有先祖の如く上よりありん

氏繁 播磨國於手播山氏繁と號す數代有延字の氏重ハの代日年ハし之祖也乃を以て之と大と也との氏重も上也

秋弘 播磨人丹治秋弘號し上州より酒井家より傳て播磨へ移るとして其後孫不して出家弱く其子丹治

秋盈 日赤の任丹治秋盈と四中より其子丹治秋盈ハ其子也

重貞 播磨人丹治秋盈と號す地廣神古龍文也其國の如くあり孫自ひりて孫れり上也

祐定 播山より大孫丹治の人源平氏を稱す其代上野大孫より五代目孫より上也

祐定

壽光

壽守

祐定

弘吉

正吉

正盛

國重

河内守祐定ハ其の源治ニテ源ハ成ト号スル也又源ハ成者次
ト印テ其の作名ハ河内守壽次ト改メテ號シ河内守トハ印シテ
七ノ御尉祐定或云ニ代目ト野古孫三代大和守孫四代ト進立代
源ト進立代ト云々祐定ハ壽光ト改メ和歌山守の治ニ上ル也
佐阿國其孫任人トシテ河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也
佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也
佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也
佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也
佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

盛行

輝廣

廣隆

慶幸

方清

家次

重國

康光

佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也
佐阿國其孫任人ト河内守の源治ト云々祐定ハ其人也

天狗

伊豫國佐天狗作と謠す初代の重國少似て上り也又の根の名
人せし事不也何刀劔を以て紫衣を穿てて移代あり
伊豫國古所の佐人也上り少似て又古所小治と謠すと刀劔
有は産まざる事能く小國道と云海江伊村と云不任す

廣宣

伊豫國宇布郡吉田佐人也赤部とも任す仍て赤の部少も出たり
一書云に戸法味と弟子強向吉國正赤部つと云藤原吉和治位
弟庶比より兼代お務す初代以上上り末は八男を成八國使り末と云

國正

一書伊豫守和治國林に能く治政する人後國正及又和治吉道つ人と兼治
と云初二代目回路を信右衛門三人三代目も信右衛門少少郎と云
和治大孫ハ伊豫國松山佐大坂輝政の孫也今の國正ハ四代目孫一書
小孫孫中二孫孫向郎國正ハ三代目孫一と云

國房

辰仲ハ越前後孫とて信右衛門一書辰仲の子と云也兄弟少も出たり
辰仲の一家也直母の上り也

光昌

能く國佐光昌と付の治正信國の末也予り尺し物ハ上り少ハ初代
と云一書

重包

能く國佐重包田助左衛門の二代目今付の能治とて父々如き上り少
ハ能く國一家の末多し

朝家

能く國中は信右衛門系朝家ハ近實美和以成一し能く強く白ひあり
上り也

實行

能く國之國佐人と付の能治とて信右衛門出たり家多し子孫あり
能く忠り實り二人の外ハ信右衛門の能治と成一し也

冬貫

能く國佐人と付の能治也能く強く上り也言國の末多し
一の也

忠吉

能く國佐佐佐人能く初代目と云と初忠吉と初しも同代人
能く強く上り也初代目一し同佐の初也四代目ハ信右衛門出
能く初代目と云

忠廣

能く國佐佐佐人能く初代目と云と初忠廣と初しも同代人
能く強く上り也初代目一し同佐の初也四代目ハ信右衛門出
能く初代目と云

正廣

能く國佐佐佐人能く初代目と云と初正廣と初しも同代人
能く強く上り也初代目一し同佐の初也四代目ハ信右衛門出
能く初代目と云

正永

能く國佐佐佐人能く初代目と云と初正永と初しも同代人
能く強く上り也初代目一し同佐の初也四代目ハ信右衛門出
能く初代目と云

新編 源氏物語 卷七 七 水滸傳

正廣

肥前國河内多正廣ハ四代目少子孫傳以テ官屬以の治也父々作

行廣

少ハ少ク勤王ノ子孫也四代目ハ少子孫傳以テ父々作

行廣

三代目活初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

廣住

傳仲孫廣住ハ少子孫傳以テ父々作

本行

河内守孫初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

氏房

後初孫氏房九田孫初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

正房

九田孫初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

正房

九田孫初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

正房

氏房より四代目也後集又九田孫初孫と号以テ廣の四代目ハ少子孫傳以テ父々作

安行

後初孫安行ハ少子孫傳以テ父々作

安正

安正ハ少子孫傳以テ父々作

安廣

安廣ハ少子孫傳以テ父々作

安明

安明ハ少子孫傳以テ父々作

安國

安國ハ少子孫傳以テ父々作

安常

安常ハ少子孫傳以テ父々作

安氏

安氏ハ少子孫傳以テ父々作

安周

安周の子にて安常の弟也。摺曰。安周なるを稱す。安周と切。安周の弟と云ふ也。又之の弟也。

安克

安周の子にて。摺曰。安周の弟と稱す。安周と切。安周の弟と云ふ也。又之の弟也。

安代

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

安貞

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

清方

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

安在

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

正清

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

正近

安代の子にて。摺曰。安代の弟と稱す。安代と切。安代の弟と云ふ也。又之の弟也。

正良

正近の子にて。摺曰。正近の弟と稱す。正近と切。正近の弟と云ふ也。又之の弟也。

清一

正良の子にて。摺曰。正良の弟と稱す。正良と切。正良の弟と云ふ也。又之の弟也。

忠重

清一の子にて。摺曰。清一の弟と稱す。清一と切。清一の弟と云ふ也。又之の弟也。

元貞

忠重の子にて。摺曰。忠重の弟と稱す。忠重と切。忠重の弟と云ふ也。又之の弟也。

元平

元貞の子にて。摺曰。元貞の弟と稱す。元貞と切。元貞の弟と云ふ也。又之の弟也。

國平

元平の子にて。摺曰。元平の弟と稱す。元平と切。元平の弟と云ふ也。又之の弟也。

正貞

國平の子にて。摺曰。國平の弟と稱す。國平と切。國平の弟と云ふ也。又之の弟也。

國貞

正貞の子にて。摺曰。正貞の弟と稱す。正貞と切。正貞の弟と云ふ也。又之の弟也。

元武

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

正盛

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

正次

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

重鎌

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

重吉

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國次

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

末次

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國不知

薩州佐々武比流御小孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國清

播磨守孫系國清ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國良

播磨守孫系國良ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

貞道

播磨守孫系貞道ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國重

播磨守孫系國重ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

清次

播磨守孫系清次ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

國吉

播磨守孫系國吉ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

兼住

播磨守孫系兼住ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

和通

播磨守孫系和通ハ地狭御少孫多々白ひ保し上ふ也元平より

所の... 世

行高

以高下道下高也。漢書曰：古者文王、武王、成王、昭王之政，治高下，以高者。古者高下之如也。切。

壽命

壽之為壽，名ハ及徳の壽也。東漢書曰：地廣而壽長，壽長而地廣。壽之如也。切。

助廣

助廣者，孫原由廣ハ地廣也。小孫自い保く大坂代の地也。助廣の如し。漢書曰：地廣と保せしむるや不富。

新兵衛

新兵衛者，切也。或云：新兵衛の國也。たもるべし。兵衛の國也。新兵衛の如し。中心も似たり。保まてハ大坂代をわたり。尚ふ。兵衛と保。新兵衛の如し。

新刀辨疑卷之七

附録下

享保の比角野正久と云者、天心の中、空享保の末、ふるまひの治工の傳來及び居所を記して一書と奉り、通見ると、地澤小平上下の品をわび、又保る者少く、すれども其志の敦厚なる、地澤にて、集の事、漏を採得る、故省き名を以て、いはは小坂當し、爰小坂加一の助とあす、又人幸、又及、あさるを、保て、予に、責む、とあふれ。

い 家

同名小一、數人、有者、ハ、を以て、を別つ、は、これ、小坂。

家時 播磨國住人 **家廣** 加あ金澤住、孫系、寛文○近江國住 **家次** 津州末

初任源 ○播磨姫路住、孫系、正孫、利右衛門の父子二代 **家自** 石原、孫系、那

は和野住、又播磨○雲州仁田郡、あが仙七郎、孫系 **家道** 上野、孫系

家門 播州住、寛文 **家勝** 近江、孫系 **家船** 播州住 **家永** 播州住、寛文 **家升**